

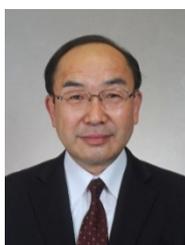
外保連ニュース号外 2019年11月

発行：一般社団法人 外科系学会社会保険委員会連合（外保連） 発行者：松下 隆 編集：外保連広報委員会
<事務局> 〒105-6108 東京都港区浜松町2-4-1世界貿易センタービル8階 一般社団法人 日本外科学会内
<事務支局> 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋一丁目1番1号バレスサイドビル9階 毎日学術フォーラム内 TEL:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555
URL: <http://www.gaihoren.jp> E-mail: maf-gaihoren@mynavi.jp 年2回発行

診療報酬改定における外保連の役割

外保連試案2020発刊に寄せて

会長 岩中 督



1982年の手術試案初版の発刊以来、手術、処置、検査の各試案は、事務局の想像を絶する作業のもとに個別に編集・印刷・発刊を続けてきたが、2010年の診療報酬改定で、当時の中医学協遠藤久夫会長より、「手術診療報酬の評価には外保連手術試案を参考にしましょう」とお墨付きを

いただき、今までの努力が報われたことに感激したことは記憶に新しい。そこで、事務局作業を軽減するのみならず、関係団体以外にも外保連試案の意義をしっかりと発信し利活用を促進するために、これら各試案を一冊にまとめ、より見栄えを良くした『外保連試案2012』が2011年暮れに医学通信社より上梓された。その後、診療報酬の改定ごとに新たな評価項目や様々な工夫を加えた試案を発刊してきたが、このたび『外保連試案2020』を関係各位にお届けする。

まずは、『外保連試案2020』の刊行にあたり、試案取りまとめに尽力された川瀬弘一手術委員長、平泉裕処置委員長、土田敬明検査委員長、山田芳嗣麻酔委員長、清水伸幸内視鏡委員長、西田博総務委員長に深謝する。また試案策定に直接かかわっていないものの、常に外保連組織を支えてくださっている瀬戸泰之実務委員長、河野匡規約委員長、松下隆広報委員長、竹中洋監事、田中雅夫監事ならびに各顧問・委員諸氏に心より感謝申し上げます。さらに各委員長の指示のもと、改訂のための膨大な作業を担当して下さった各加盟学会の委員諸氏、データの管理や編集を担当した株式会社ホギメディカル、メディエ株式会社、株式会社医学通信社の皆様と外保連事務局篠原氏、外保連事務支局中川氏ほか職員の方々にも、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。また高所大所より常に外保連の現場を指導して下さっている、比企能樹、山口俊晴両名誉会長にも心よりお礼を申し上げたい。

さてこのたび上梓する『外保連試案2020』では、すべての委員会で新規技術・改正技術の審査を行い、再評価ならびに精緻化を行った。また前回改定から外保連手術コードSTEM7が、DPCによる診療報酬請求の際に

目次

診療報酬改定における外保連の役割
外保連試案2020発刊に寄せて

～会長 岩中 督

スタイル目次
「外保連試案2020発刊について」
*手術委員会
*処置委員会
*検査委員会
*麻酔委員会
*内視鏡委員会

編集後記 ～ 広報委員長 松下 隆

三保連ニュース

事務局からのお知らせ

併記することが義務付けられたが、従来のKコードとの紐づけ上の様々な疑義が指摘されていた。これらのご指摘に対しては、川瀬手術委員長が中心になって厚生労働省担当者とともに一層の精緻化を行い、外保連試案2020では概ね整理された。1:1対応できていない両コードの紐付け作業は、診療現場の外科医や診療情報管理士の方々からのご意見が非常に重要であることから、引き続きのご指導をお願いしたい。

このように、外保連は外科技術を科学的に体系づける作業を続けてきたが、根拠のある我々の議論やその成果物である試案は、厚生労働行政に大きな影響を与えつつある。外保連の地道な努力が少しずつではあるが形を成し、診療報酬改定のたびに公的に外保連の評価が高まってきていることに感謝したい。厚生労働省においても手術診療報酬表を科学的根拠に基づいて今後再編していきたい旨の発信がなされていることより、加盟学会の関係各位におかれては、引き続き外保連活動へのご指導・ご支援を賜りたい。

各委員会からの報告

外保連試案2020発刊について

手術委員会 委員長 川瀬 弘一



2017年12月に手術試案第9.1版が発刊されてから約2年が経過しました。2年毎に改訂を加えており、第9.2版はその最新版です。なお2011年に発刊された手術試案第8版からは処置試案、生体検査試案、麻酔試案を含めた『外保連試案2012』という全体号として

専門の出版社から発刊され、『外保連試案2018』からは内保連と共同で作成した内視鏡試案も掲載しています。今回、手術試案は2年前の第9.1版のマイナーチェンジであり、第9.2版として『外保連試案2020』に掲載されています。

この2年間に手術委員会では新規術式358件、廃止術式6件が承認され、手術試案第9.2版本体には3,859件の術式が掲載されています。診療報酬の手術コード(Kコード)として既に収載されている術式および今後保険収載していただきたい術式を掲載しています。新規術式として手術委員会で承認されるには相当ハードルが高く、ある程度一般的に行われている術式であり、安全性や有効性を示した上で、50例の手術時間や手術に要する人数、医材料の実態調査を行うことが求められています。各学会から選出された手術委員によって議論され、承認されます。我が国で1~2施設しか行われていない術式は承認されません。

令和2年度診療報酬改定に対して外保連から提出した医療技術評価提案書は新規要望項目として164件(手術に係る項目は81件)、改定要望項目として208件(手術に係る項目は129件)です。令和元年10月31日に開催された第2回中央社会保険医療協議会診療報酬調査専門組織(医療技術評価分科会)において、評価の対象となる技術として新規要望項目140件(手術は77件)、改定要望項目を184件(手術に係る項目は127件)を評価いただきました。どの項目が最終的に診療報酬に反

映されるかは、今後の改定率にもよると思いますが、新規要望術式は外保連手術委員会で十分に議論され、一般的と判断された術式です。要望したすべての新規術式を保険収載していただきたいと考えています。外保連手術試案はドクターズフィーの考え方を示した医師の技術料としての科学的根拠を表したものであり、今後も実態に合わせたものに修正していきたいと考えています。

手術試案には第8版から、外保連手術コード(STEM7)を掲載しています。中医協で診療報酬に係る事務の効率化・合理化について議論がされ、このなかでイノベーションの進展に伴い手術の多様化・高度化等が進む中、Kコードの限界も指摘されています。また世界保健機構(WHO)では、医療行為分類の国際的標準化に向け、保健・医療関連行為に関する国際分類(International Classification of Health Interventions(ICH))の開発が進んでおり、今後は標準化された用語や体系的に整理されている外保連手術コード(STEM7)等を参照したマスターの整備・普及の方向性が示されています。平成30年度改定では、データ提出加算で提出を求めているデータにおいて、KコードにSTEM7を併記する欄が設けられ、厚労省ホームページや青本に「KコードSTEM7対応表」が掲載されました。これによりSTEM7を付記する作業を主に行っていたいただいている診療情報管理士や病院事務職員から、数多くの質問をいただきました。これによりSTEM7の問題点が抽出され、質問に対する回答やSTEM7の修正を行い、「QA及び修正」として外保連ホームページに掲載しています。手術試案第9.2版にはこの2年間にいただいていた数多くの疑義、質問を反映させた最新のSTEM7を掲載しています。外保連手術試案は技術料を検討する科学的根拠だけでなく、治療法の分類法としても使用されるようになっています。

処置委員会 委員長 平泉 裕



2020年次期診療報酬改定は、10月から導入された消費税10%への増税政策の名目として掲げられた社会保障の充実にもかかわらず、相変わらずの財務省からのマイナス改定圧力にさらされています。一方では厚労省発表が示した全国医療機関の収益水準では多くの医療機関が赤字経営を余儀なくされている実情があり、大きな乖離が存在しています。このような状況下で医療スタッフの件費を含んだ処置技術料が極めて低く抑えられている我が国の医療報酬制度の現状が医療機関の経営状況悪化を深刻化している実態を医療経済実態調査報告が示しています。

このような状況下で外保連処置委員会の役割は、外保連処置試案に収載する個々の技術項目について、より精緻化したデータを収載し、広く政府～メディア～国民に向けて発信していくことにあります。

今回新たに処置7桁分類コードを診療報酬コードの隣に記載しました。これは手術試案第8版に記載した手術分類コードとの互換性を重視しながら処置委員会で1年間かけて作成したものです。操作対象部位3桁、基本操作2桁、アプローチ方法1桁、アプローチ補助器械1桁の7桁を連結したもので、アプローチ方法でまだ議論を要する部分があるものの、今後さらに完成度を高めていく方針です。

10月31日に厚労省が発表した2020年改定のための一次評価結果では、医療技術評価分科会に提出された942件の提案書に対し、730件が評価対象となりました。年末から年明けにかけては厚労省担当官にとって更に多忙を極める時間となるこの時期に置いて、外保連試案2020が評価判定材料として有効利用されるだけの客観的指標を提供できる資料だと確信しております。ここに外保連加盟学会の担当委員の皆様のご御貢献に感謝申し上げます。

検査委員会 委員長 土田 敬明



平成10年6月に「生体検査報酬に関する外保連試案」の第1版が比企能樹委員長（現名誉会長）のもとで完成し、引き続き14年10月、17年11月、19年11月、23年12月、25年11月、27年12月、29年11月と改訂をおこなってきましたが、今回は内容をさらに刷新した第7.2版を刊行することとなりました。

今回の改訂の特徴は次のとおりです。

1. 第7.1版から内視鏡検査が内視鏡試案として独立し、一般生体検査として機能検査、超音波検査、検体採取手技の3区分、および放射線画像検査試案として放射線画像検査、核医学検査の2区分の計5区分に分けて評価し、検査費用を算定するようになりました。
2. それに伴い、軟性内視鏡を用いた検査を内視鏡試案に移行しました。硬性内視鏡を用いた検査は検査試案に残しました。また、軟性および硬性内視鏡の指定のない内視鏡検査については、軟性内視鏡を用いた検査と硬性内視鏡を用いた検査に分け、軟性内視鏡を用いた検査のみ内視鏡試案に移行しました。
3. しかし、一部検査の内視鏡検査について、内視鏡試案への移行にあたっての見直しが必要となり、見直し後修正しました。
4. 医療材料について、廃版になったものやバージョンアップされたものがあり、精緻化を行い修正しまし

た。

5. 一般生体検査試案および放射線画像検査試案については、

総務委員会の提案にしたがって件費の再計算を行いました。

新規検査医療技術を追加し、またいくつかの項目内容の修正をしました。

検査に係る医療材料のうち、「保険で償還できないもの」のみを表示しました。

6. なお保険収載されている検査項目については、現行の保険区分記号を表記しておりますが、ここでは主な記号のみを記載してあります。実際には、そのほかに管理料、診断料あるいは造影剤使用など複数の点数が算定されます。

試案の記号は現行の点数解釈表から当該検査項目を検索しやすいようにするためのものです。

臨床現場でもっとも多忙な立場であるにもかかわらず、頻回の委員会やワーキンググループに出席いただき、さらに本来医師の苦手とする医療材料の調査に尽力いただきました各学会の委員の先生方に心からの感謝を申し上げます。

さらに終始綿密に事務処理を進めていただきました外保連事務局スタッフの皆様のご尽力に心から御礼申し上げます。

麻酔委員会 委員長 山田 芳嗣



麻酔委員会では、外保連試案 2020 に掲載する麻酔試案 2.1 版を作成いたしました。麻酔試案第 1 版は外保連試案 2012 出版の際に初めて麻酔試案として策定されたので、8 年振りの大幅改訂になりました。麻酔試案第 2 版では、8 年間に及ぶ麻酔委員会での検討を経て、全身麻酔のコストの計算方式をより実態に合わせて修正し、試案本体の大部分で金額が変更されています。大きな変更点は 2 つあり、麻酔係数の精緻化と時間加算の計算方式です。麻酔係数は麻酔の困難な状況や病態に対し必要とされる麻酔科医師数と麻酔技術度を総合して設定されていますが、今回認定施設を中心に麻酔実態調査を行い、その結果をもとにして実態により適合させました。例えば、麻酔科医師の最初の 1 名は技術度 C のままで、それ以降の員数は技術度 B に変更いたしました。2018 年までの診療報酬の改定で長時間麻酔加算が認められた

ため、麻酔時間 6 時間以上の 30 分毎の時間加算の割り増しは削除し、麻酔時間が 8 時間を超えた場合選定した手術術式について一定の加算額といたしました(技術度 C の医師人件費 X3 時間 = 167,580 円)。

神経ブロックでは新規項目の「パルス高周波療法」について、技術度と施行時間を局所麻酔薬と神経破壊薬の中間に位置付けて、大きく 3 区分に分類して策定することになりました。さらに、将来のコーディングを視野に入れて、部位ごとに配列いたしました。基本となる計算方式に変更はありませんが、第 1 版とはまったく違う表示になっておりますのでご留意いただきたいと思っております。

今回発刊の外保連試案 2020 に掲載の麻酔試案第 2 版は旧版より最近の実態に合致した合理的なコスト算定が行われておりますので、より広く活用されることを期待しております。

内視鏡委員会 委員長 清水 伸幸



内視鏡試案は、軟性管腔内視鏡を用いた検査・処置・手術を対象とする横断的な試案作成を目指すという基本方針のもと活動を行っていた『内視鏡における適正な診療報酬に関するワーキンググループ』により作成された、外保連試案の中で最も若い試案です。本ワーキンググループは 2017 年に発展的に解散し、『内保連・外保連合同内視鏡委員会』が設立されました。その後、隔年の診療報酬改定に向けて、また日々発展していく内視鏡関連手技の実態に見合った試案とすべく改訂を重ねております。

内視鏡試案の第 1 版は別冊のかたちで提供されましたが、第 1.2 版は「外保連試案 2018」に掲載され、診療報酬改定要望・外保連試案改訂に合わせて改訂・精緻化を進めており、今回、外保連試案 2020 に第 1.3 版を掲載しております。

本委員会では各手技の専門性を考慮してワーキンググループを立ち上げ、耳鼻咽喉・呼吸器・消化管・肝胆膵・泌尿器・女性器の 6 グループに分かれて試案の精緻化を進めておりましたが、その後、「脊椎・関節」「心臓・血管(循環器)」「神経」を追加、今後も内視鏡技術の発展に合わせて、各専門領域の専門性・特殊性を考えなが

ら作業を進めております。また、内視鏡試案の考え方や滅菌等に関して「総論」グループも設置し、他のワーキンググループとあわせて試案の改訂を進めております。近い将来、実臨床の場に登場するであろう AI なども、検査委員会・手術委員会と連携を図りながら検討を進めることになるものと考えております。

本試案の項目は検査・処置・手術試案より移行したものが大多数を占めておりますが、移行すべき項目は本版ではほぼ移行できたものと考えております。この間、各委員会の先生、特に委員長の先生方に多くのご指導をいただきました。今後は新規項目の登録と各項目の精緻化が主たる任務になります。

まだまだ走り始めたばかりで、改良すべきところも多々ありますが、これまでの委員会での議論を踏まえて、皆様に活用していただける試案となるように努めていきたいと考えております。

最後になりましたが、各加盟学会から参集いただいた内視鏡委員会の委員の諸先生、外保連・内保連の関係各位、始終綿密に事務処理を進めていただきました外保連事務局・事務支局をはじめとするスタッフの皆様には深く御礼を申し上げますとともに、引き続き内視鏡試案の精緻化・活用にご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

編集後記

広報委員会 委員長 松下 隆



外保連ニュース号外をお届けします。今回は「外保連試案 2020」特集号です。「外保連試案 2020」では、これまでの改訂と同様に各試案のさらなる精緻化を進めるとともに、前回の診療報酬改定から DPC による診療報酬請求の際に併記することが義務付けられた外保連手術コード

(STEM7) の更なる精緻化を進め、K コードとの紐付け整理作業がほぼ終わりました。厚生労働省から手術診療報酬表を科学的根拠に基づいて今後再編していきたい旨の発信がなされており、外保連試案の重要性はますます高まっていくと思われます。委員の皆様、今後とも外保連試案のさらなる精緻化・充実にご協力くださいますようお願い申し上げます。

三保連ニュース

11月5日にフクラシア東京ステーションに於いて、第20回三保連合同のシンポジウムを開催し、今回は『令和2年度診療報酬改定に期待するもの - 三保連の重点要求項目 - 』と題し、各パネリストの先生方にご講演いただきました。

詳しくは外保連のホームページ(<http://www.gaihoren.jp/>)をご覧ください。

事務局からのお知らせ

【原稿募集・1】

第17号より外保連ニュースに加盟学会の活動を「加盟学会の活動だより」として掲載し、ご紹介することになりました。文字数などの制限はございません。皆様、奮ってご寄稿ください。